

着用推奨

冷却効果を高めるベストも

●リキッドウインドを使う際は、通気性の良いジャケットが必須。また、アンダーシャツとジャケットの間にRSU501 エアフローベストを着ることが推奨されている。これは、通気性を高めるとともに、冷却水によるシミや色移りを軽減できる製品だ。ブラックとグレーの2色展開でそれぞれ5940円/5830円。サイズはM、L、XLを用意



マンダムと共同開発



リキッドウインド使用に必要なセット

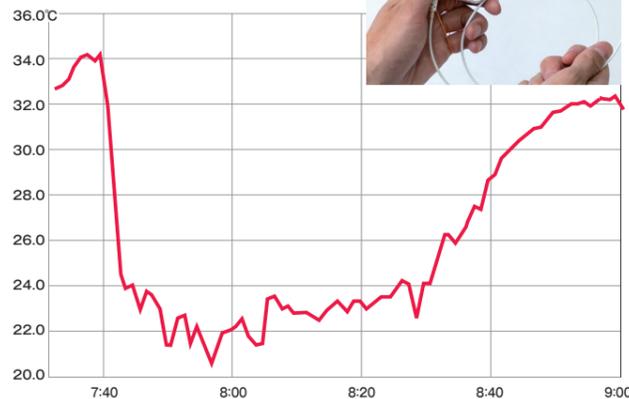
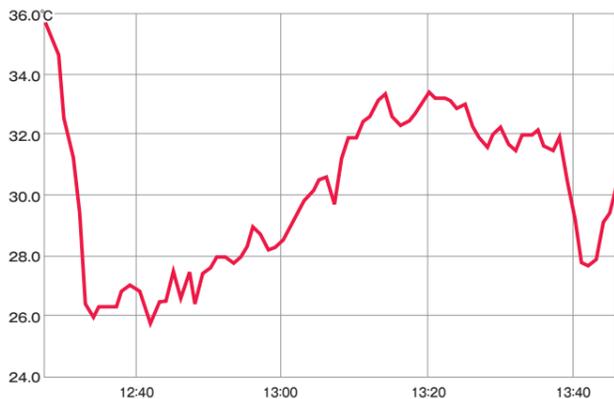
●二重構造の胸部生地で保水力を高めたRSU500 リキッドウインドアンダーシャツは4730円で、サイズはS~XLの4種類。保冷ボトルと保冷ボトル専用バッグ、スプレーヘッド、送水チューブがセットになったRSP505 リキッドウインド保

冷ボトルキットは6050円。男性用化粧品メーカーのマンダムと共同開発した専用冷却水で、消臭成分も配合されたRSP501 ギャツビーリキッドウインドウォーターは660円。冷却水は夏だと1日のツーリングで1パック消費するイメージだ



確かな冷却効果を実走で確認

※アンダーシャツ 胸元表面温度を計測



グラフ②: 外気温30~35°C超で約1時間40分走行

●真空断熱構造とはいえ密封されているわけではないので、出発から約5時間経過したこちらの計測開始時には冷却水の液温は25°C程度まで上昇。しかし、メントールの冷感と気化熱冷却は健在で、暑さは感じ

つつもツラくはなかった。同行したクルマの外気温計では、13時過ぎには高速道路上で気温が35°Cを超えていたそうだが、適宜停車して冷却水を補給することで、シャツの表面温度は33°Cほどに抑えられた

グラフ①: 外気温22~24°Cで約1時間20分走行

●送水前のアンダーシャツ胸元表面は34°C程度だったが、送水後は24°Cまで一気に低下。冷やした冷却水が染みているから当然だが、走り始めて20分後にはさらにマイナス2°Cの22°Cに。これは、走行風による

より気化熱冷却が進んだためだろう。8時40分過ぎにはアンダーシャツが乾いてきたため表面温度が30°Cを超えたが、メントールの冷感も持続していたので、最後まで冷却水の途中補給なしで行けた

これがあって本当に助かった!

●今回の実走インプレッションをお届けしたのは本誌編集部員の林。5月ながら真夏日にリキッドウインドを試したことで、その効果のほどははっきり実感することができた。冷却水を事前に冷やするとき、保冷ボトルも冷蔵庫や冷凍庫に入れて冷やしたら、より冷たい状態が持続したかも



これが夏のバイクライフの最適解かも

インプレの補足としては、冷却水が詰まった送水パイプが血管の多い首周りを囲んでいるのも、体を冷やすのに非常に効果的だと実感できた (温まったら送水して入れ替えればOK)。アンダーシャツを濡らす「程度」は状況に応じて調整した方が良さそう。巡航できる場合はたっぷり濡らしても大丈夫だったが、渋滞の中にいるときなどは、濡らしすぎると肌にシャツがくっつく感覚が若干気になった。保冷ボトルの着用感はウエストバッグを付けている程度で、配置場所を調整すれば乗車時でもジャマに感じることはなかった。

くするためテスト日前に専用冷却水のバックを冷蔵庫へN。テスト当日、ボトルに移した際の液温は約9°Cとなっていた。リキッドウインドのアイテムを一式セットし、スプレーのトリガーを握って冷却水を送水すると……キタッ! 低い液温とメントールの効力によってキンキンに冷える感覚が首元から胸と背中にも伝わっていく。朝7時40分頃に出発後、10分ほど下道を移動してから高速道路に乗り、1時間ほど走って下道に降りて10分程度移動、9時に目的地に到着。この行程でのアンダーシャツ胸元の表面温度の推移は上のグラフ①のとおりだ。実はこのとき、冷却水でアンダーシャツ

を濡らしたのは出発前の一回のみ。約1時間は表面温度を30°C以下に保てたことになる。また、気温は22~24°Cで推移していたが、到着後の液温は3°Cほど上がったのみ。これはまさしく、新しくなった保冷ボトルの効果だ。目的地到着後に冷却水を追加で送水した際の体感、出発時とほぼ変わらなかった。さらに、帰り道でも試した(グラフ②)が、30°Cを超える真夏日——実は冒頭で触れた日にテストしたのだ——となっても、うだることなく乗り切れた。進化してさらに「冷やす」性能に磨きかけたリキッドウインドは、今年の夏もライダーの救世主となってくれそうだ。

最新バージョンを実走テスト

夏を爽快に走れる! TAICHI LIQUIDWIND

過酷な暑さはライダーの大敵。その対策で一步先を行くアイテムが、タイチの「リキッドウインド」だ。来る夏に向けて、改めてその特徴と効果を実走テストで検証、レポートする。コレはやっぱりなかなかイデ!

冷感がより持続する最新版 5月中旬に東京などで早くも最高気温30°C以上の「真夏日」を記録したのは、記憶に新しい。このまま8月になったら、一体どれほど暑くなるのだろうか? 夏期休暇のツーリングなどでツライ思いをしないために、対策を早々に用意した方がいいのは確かだ。そこでタイチのリキッドウインド。腰に装着したスプレーボトルから専用設計の冷却水を専用アンダーシャツに送水し、走行風を受けることで胸部と背中を集中冷却するシステムだ。近年、ライダーの夏装備として普及している吸汗速乾アンダーウェアと異なるのは、専用冷却水で積極的に濡らすとい

う点。冷却水自体の冷たさと、配合された清涼成分(メントール)による冷感、そして、気化する際に周囲の熱を奪う「気化熱冷却」の効果も、ワンランク上の暑さ対策を実現しているのである。……と、ここまでがリキッドウインド初登場時からのアピールポイント。最新版では、専用冷却水自体の冷たさをより長時間キープするために、いわゆる「魔法瓶」タイプの保冷ボトルが採用されている。従来品は保冷のために別途保冷剤を用意する必要があったが、その手間が解消されたのだ。さて、実際にバイクを走らせ、最新版の実力を試してみよう。まずは冷却効果をより発揮させるため、また、保冷効果を分かりやす

従来型も好感触だったが……?



保冷ボトルが新タイプに

本誌2021年8月号ではデビューしたリキッドウインドをテスト、好評価した。当時の冷却水を入れるボトルは樹脂製だったが、22年の刷新で真空断熱構造のものに進化!

